

新香山中「ノー携帯デー」「家族会議デー」宣言

ー携帯電話・スマートフォンより家族の会話を！ー

岡崎市立新香山中学校 教頭 小田 哲也

e-mail toda@st.ok1b.ed.jp

キーワード：生徒会活動、保護者、家族の会話、情報モラル

1. はじめに

携帯電話利用は、自転車に乗りながら電話したり、社会問題になっている「携帯中毒」のように携帯電話を手から放せなくなったりするなど大きな問題である。それに伴うように、家族と話をしたり、一緒に団らんする時間が少なくなったりしている現状がある。この状況は、本校においても少しずつ現れてきている。携帯電話・スマートフォンの所持率が増え、こういった問題を危惧していたこと、生徒から「夜に電話がかかったりメールが来たりして返信しなくてはならない」などの意見があり、生徒の間でなんらかのルールが必要だという雰囲気になってきたことから、生徒会で、「ノー携帯デー」と「家族会議デー」の宣言を行うことになった。

2. 今までの経緯

携帯電話やネット掲示板、SNSの書き込みで、いじめにつながるようなことをなくすために、数年前から、入学式・始業式や入学説明会、修学旅行の説明会などの後に、ネットインストラクターなどによる保護者・生徒への携帯電話の利用と情報モラルについての講演を実施してきた。本年度6月のいじめ防止対策推進法の成立により、生徒もいじめ防止に対する意識が高まっている。生徒は日頃からメールのやりとりをするものの、必要のないメールも多いことには気づいている。また、書き込みがいじめに発展する心配が出てきていることも感じていた。

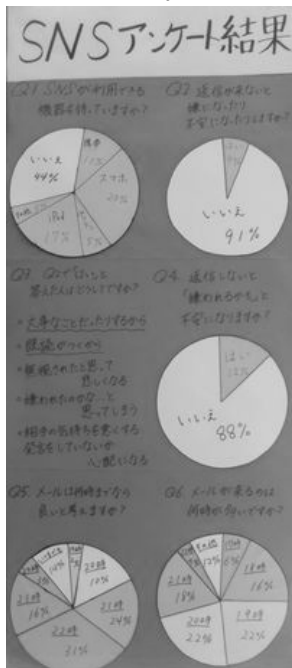
携帯電話・スマートフォンが普及していく今だからこそ、利用の仕方をはじめをつけ、自主的に制限をしていくことに意義があると考えている。また保護者にも啓蒙し、保護者への理解とともに、保護者同士も「ノー携帯デー」と「家族会議デー」では、利用を控えるようにPTA新聞で訴えていこうと考えた。

3. 実践の概要

(1) 生徒会の提案

生徒会が行ったアンケートでは、SNSやメールは「何時に送信してもかまわない」という生徒がいるほど、利用にルールがなく、勉強机に携帯電話を置いて勉強している生徒が多いことが明らかになった。

全学級の代表と話し合い、生徒が、「電話をしない」「メールを送らない」という日を設定し、全員で利用しない日を作ろうということになった。それに付帯し、その日は、家族会議をする日として、家族と話をし、普段話をしないことなども進ん



で話をしようと決めた。生徒会役員会・生徒議会を通して、携帯電話・スマートフォンを利用しない日である「ノー携帯デー」の設定と、その日を家族と話をする「家族会議デー」を考えた。本校は毎週木曜日が、放課後の部活動がなく、早く帰宅できる日である。この日を「ノー携帯デー」として、早く家に帰ったら家の手伝いをしたり、家族と話をしたりする「家族会議デー」とした。

(2) 生徒総会での「ノー携帯デー」「家族会議デー」の採択

生徒総会で、携帯電話利用における利用のけじめ、家族との会話の時間の確保、家族としての役割の実行を目的に提案し、全校生徒で採択をした。質問では「必要な連絡がしたかったらどうするか」「家では一人ぼっちでメールができないとつまらない」「ゲームがやりたかったらどうするか」などがあげられた。



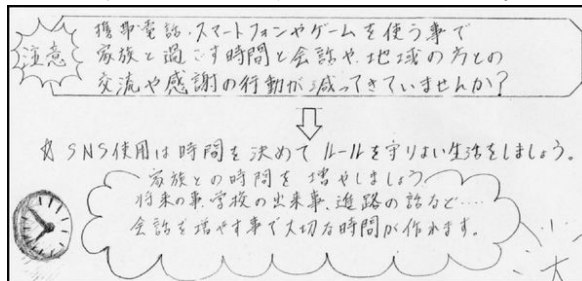
(3) 家庭への啓発

生徒会の立案したこの活動を、学校やPTAでも支援し、生徒会の発行新聞である生徒会通信に連名で「ノー携帯デー」「家族会議デー」の推進を家庭に呼びかけた。またPTA新聞にものせ、毎週木曜日は携帯電話を利用しない日とし、さらに携帯やスマートフォン意外にもゲームなどもしないチャレンジウィークを設定するなどの啓発をした。

(4) 「ノー携帯デー」「家族会議デー」キャンペーンの開始

① 生徒同士の共通理解

こういった活動ははじめが肝心である。木曜日は、朝の会から「ノー携帯デー」「家族会議デー」であることを全校に通知し、携帯電話利用をしないこと、家に帰ったら家の手伝いをすること・家族と話をすることなどを周知し、家に帰ってから連絡をしなくても済むように、明日の連絡を確実にするようにする。



②情報モラル学習週間

道徳の時間が特別活動の時間などを利用して、キャンペーン週間は全学級で情報モラルの授業を行う。情報モラル指導では「思いやりと責任」・危険回避方法などを学習する。最近では特にSNSや無料ゲームサイトの利用の問題点を学習している。



ネット安心安全講座

(5) 宣言の継続のために

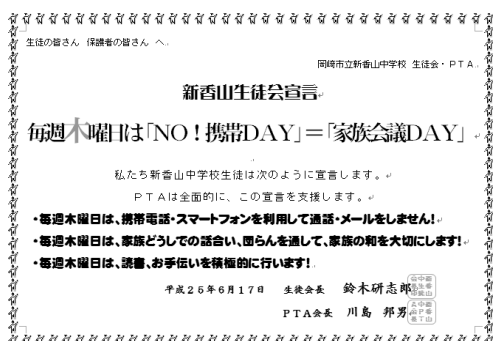
本活動は本年だけではなく今後も続けていきたいと考えている。そのため定着の手段として、学期に1度1ヶ月間チャレンジウィークやキャンペーンを行う。また学期に1度は、県警生活安全課や携帯電話会社などからの情報モラル講習を実施する。また生徒会通信やPTA新聞でも啓発している。これらにより木曜日は「ノー携帯デー」「家族会議デー」を定着させられるよう、継続活動をしていく。

4. ICT活用の工夫

情報モラル指導は、読み物の道徳教材の他、パソコン室で利用できる情報モラル教材を使って実施している。いまだに送られてくるチェーンメールへの対応、学校裏サイトによるネットいじめの状況と対応、YouTubeへの動画の不正投稿、プリ画交換による被害など、実際の問題事象を1つ1つ知り、解決する手立てを学べる情報モラル教材を現実問題として扱っている。ネット社会では、問題が多様化していて、それぞれにおいて対応が異なることから、それぞれの問題事象を疑似体験できる教材は有効である。

また、利用している情報モラル教材には、教材利用後の演習ドリルがあり、生徒の判断の危険性を判断できる機能がついている。オークションやフィッシングなどは、生徒の誤った判断で大変な料金を請求されてしまうことから、生徒の判断力を試すことができるのは有効であり、ネット上での問題を疑似体験しながら情報モラルを学ぶことで、携帯電話・スマートフォン利用にはルールとモラルが必要であることを学ぶことができる。

生徒や保護者へのチラシは、パソコン部部員が作成し、全生徒家庭に配付した。制作したパソコン部部員は、「ノー携帯デー」「家族会議デー」の宣言内容がわかりやすくなるよう、文字サイズ、文字数を工夫・精選して作成した。



5. 生徒の変容

本校の携帯電話・スマートフォン所持率は78%である。生徒会が「ノー携帯デー」「家族会議デー」を提案した当初は、生徒達は「携帯を使わないなんてできない」「メールしなくてもテレビを見てしまえば同じではないか」「親と話すことはない」「一人ぼっちだからゲームしたい」などという反対の意見もあった。

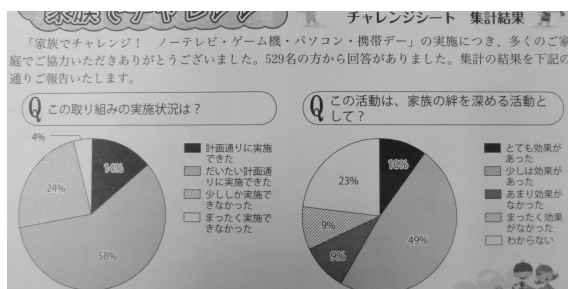
しかし携帯電話の利用に危惧する生徒も多く、携帯電話を所持しない生徒も加えて、生徒会役員を中心に、実際に本校で起きているメールでの悪口送信の事例を挙げるなどして、全校生徒達に訴えた。

メールやゲームを使わないために、生徒たちは工夫を提案した。たとえば、図書委員会の担当生徒は、「時間を見つけて本を読もう！」と図書を貸し出しを促進したり、給食委員の担当の生徒は、「夕ご飯を作ろう！」と給食の時間にテレビ放送を使って夕飯レシピを紹介したりすることで、家に帰ってからの家庭の手伝いの推進をした。また、各学級では、「今日親と話すこと」というテーマで話し合い、木曜日に家に帰ったら親と話をするテーマを決めるなどして、生徒会のこの取り組みを支援した。

木曜日の翌日である金曜日の朝に、無記名で「携帯電話を利用した回数」を調べた結果では、取り組みを始めた当初はやはり回数は減ったものの利用がなくなることにはなかった。(普段の利用回数平均3.1回、第1週平均1.8回)。しかし毎週木曜日に校内放送で周知するなどして、1ヶ月後はほとんど利用が無しになった(第4週平均0.2回)。同時に、「本を読むようになった」「風呂の掃除をするようになった」など親からの意見・反応がでるようになってきた。また保護者会などの機会に「家族で話すことが増えた」と保護者から言われることがかなり増えたと、担任が実感している。2学期になって、金曜日の携帯電話利用回数調査は学期に1~2回とするが、夏期休業を終えた現在でも、木曜日は、生徒から「利用が少なくなった」と言葉が出るぐらいになってきた。

6. 成果と今後への課題

チャレンジウィークは、「家庭でチャレンジ」と題して、テレビやゲームを含めて、使わないようにする週間である。本年1学期末の結果を集計してPTA新聞に載せたものが以下の記事である。



「計画通りに行えた」(計画的に利用を減らした)と答えたのは14%、「だいたい計画通り」が58%であった。また家族の絆を深める活動としては「効果があった」と答えるのは10%、「少しは効果があった」が49%であったことから、効果を上げていると考えている。

今後も家庭の協力を促しながら、継続的に実施していくことが大切であると考えている。